

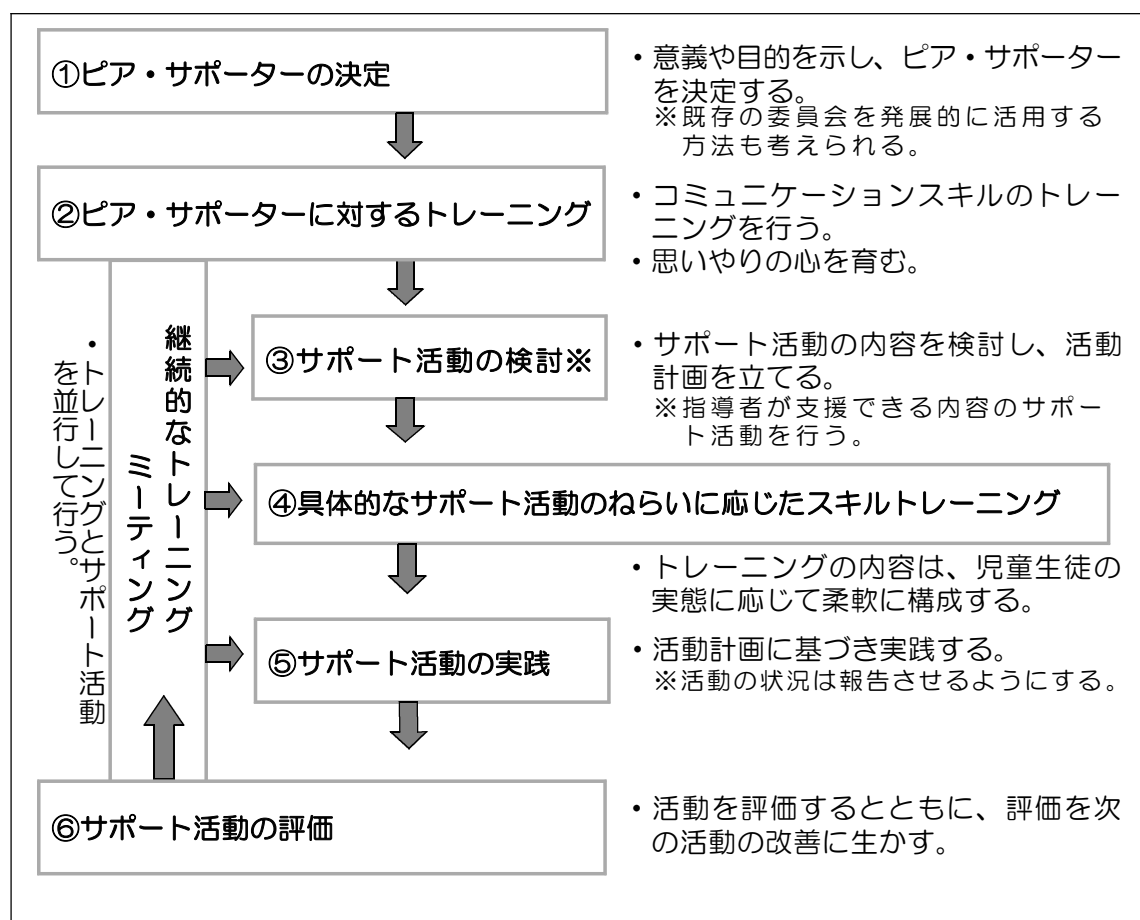
ピア・サポート

ピア・サポートとは

「ピア」とは同年代の仲間、「サポート」は支持、援助という意味で、児童生徒が仲間をサポートするために必要なトレーニングを受け、他者を思いやることを学び、仲間に対してさまざまなサポート活動を行うことです。

ピア・サポートの進め方

ピア・サポートは、思いやりにあふれた学校環境を創造しようという教育活動で、具体的には、次のような流れになります。また、活動を進めるに当たっては、教職員の共通理解を図ることが必要です。



※ サポート活動の検討

サポート活動は、相談活動だけではなく、より幅広く捉えるべきです。「数学がわからなくて困っている」「けがで松葉杖を使わなくてはいけないので、荷物を持てなくて困っている」「転校したばかりで、学校の様子がわからなくて困っている」などに対する支援もサポート活動として考えることが大切です。また、挨拶運動など、啓発的な活動を企画することも考えられます。

ピア・サポートを校内研修で実施する意義

校内研修においてピア・サポートの進め方を確認したり、ピア・サポーターに対するトレーニングを体験したりすることにより、教職員の共通理解を図り、児童生徒のサポート活動を支援するための力量を高めることができます。

校内研修で行うピア・サポートの例

【例1】

知り合うための活動「ごちゃまぜビンゴ」

1 目的

相手の名前や人柄を知る

2 人数

30人前後

3 研修の流れ

- ① 全員で立って動きまわり、それと見える相手を次々に見つけて質問していきます。
- ② 相手が質問したことに当てはまれば、名前を書いてもらって次の相手をみつけます。
- ③ たて、横、斜めいずれかの1列に名前がそろったら、ビンゴになります。

ごちゃまぜBINGO

- 1 質問する前に、あくしゅをしてから、名前を言います。相手の人に質問をして書いてあることに当てはまったら四角形の中にサインをもらってください。
- 2 質問は1回だけで、続けて同じ人には質問はできません。
- 3 たて、横、ななめのうち、どれでも一列にサインがもらえたら、「ビンゴ」と言います。

外で遊ぶのが好き	ディズニーランドに行ったことがある	自転車をもっている	姉か妹がいる	ペットをかっている
体育が好き	楽器をひくのが好き	CDで音楽を聴くのが好き	クッキーをつくられたことがある	まんがが大好き
飛行機にのったことがある	兄弟がいる	チョコレートが好き	一人で電車にのったことがある	算数が好き
社会科が好き	昆虫が好き	小さい子と遊ぶのが好き	朝ねぼろである	足がはやい
サッカーが好き	同じテレビ番組を見ている	まんじゅうが好き	本をよむのが好き	料理が好き

【例2】

聞き方・伝え方の活動①「聞くときの姿勢や態度」

1 目的

聞き手の姿勢や態度が、話し手の話そうとする意欲や話しやすさに影響することを知る

2 人数

2人1組で行う。指導者が複数の場合は、大人数でもできる

3 研修の流れ

- ① 2人1組をつくります。
- ② 話し手と聞き手を決め、聞き手に「役割カード」No.1を配付します。このカードは、話し手には見せないようにします。
- ③ 向かい合って座り、話し手に会話のテーマを指示します。聞き手は、カードの指示に従って2～3分間、話を聞きます。
- ④ 会話が終わったら、感想をお互いに話し合います。
- ⑤ 「役割カード」No.2、3の指示に従って同様の活動をします。
- ⑥ お互いの感想を全員の前で発表します。

役割カードNo.1
かかわりの少ない聞き方で聞いてください
・相手の言うことに興味を示さない
・話している相手を見ない、ちょっと横を向く
・あなたの時計や洋服をいじる
・つめをかんたり、かみの毛をいじる

役割カードNo.2
えらそうな聞き方で聞いてください
・相手の言うことを、ささぎってしゃべろうとする
・自分の意見をおしつける
・さしずをしようとする
・そんなことはばかげていると言う

役割カードNo.3
かかわりあう聞き方で聞いてください
・体を話し手のほうに向け、相手を見る
・リラックスしてのびのびとした姿勢をとる
・相手の話をよく聞き、興味をもっている態度を示す
・聞いていることを、みぶりや顔の表情であらしたり、うなずいたりする

【例3】

聞き方・伝え方の活動②「背中合わせと向かい合わせの伝達」

1 目的

話をするときの位置関係が、情報の伝達にどのように影響するかを、体験を通して考える。

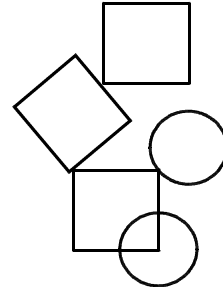
2 人数

2人1組で行うので、指示がとどけば大人数でもできる。

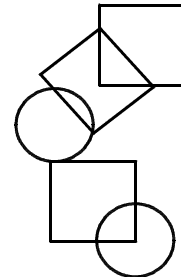
3 研修の流れ

- ① 2人1組をつくって座ります。
- ② 話し手と聞き手を決め、話し手に「カード」を、聞き手に白い紙を配ります。
- ③ 背中合わせに座り、3分間程度の制限時間内に「カード①」と同じ図形が書けるように、話し手は聞き手に情報を伝達します。その際、聞き手はいっさい質問はできません。
- ④ 時間がきたら結果を見せます。
- ⑤ 次に向かい合わせになり、同じ要領で話し手は聞き手に、「カード②」の情報を伝えます。聞き手は質問できませんが、話し手は様子を見ながら指示します。
- ⑥ 時間がきたら結果を見せます。
- ⑦ 2つのやり方を比べて、伝わり方やそのときの気持ちについて話し合います。

【カード①】



【カード②】



【例4】

集団活動の中での意思決定や問題解決の活動「無人島からの脱出」

1 目的

- ① 自分の考え方を主張する。
- ② 友達の多様な考え方を知り、お互いを認め合える人間関係を築く。

2 人数

20人前後

3 準備

脱出のために必要なものを書いたカード（各グループに10枚）を用意する。

なべ、ライター、お金、携帯電話、家族の写真、薬、毛布、テント、ナイフなど児童生徒の価値観にふれる物を考える。

4 研修の流れ

- ① 5人から6人のグループをつくります。
- ② 「無人島からの脱出」という状況について、指導者が説明をします。
- ③ 10枚のカードの中から、一番必要だと思われるものを自分で選び、理由を考え、発表します。
- ④ グループで話し合って10枚のカードから必要なものを選び、順位を付けます。
- ⑤ グループの代表が順番に、全体に発表します。